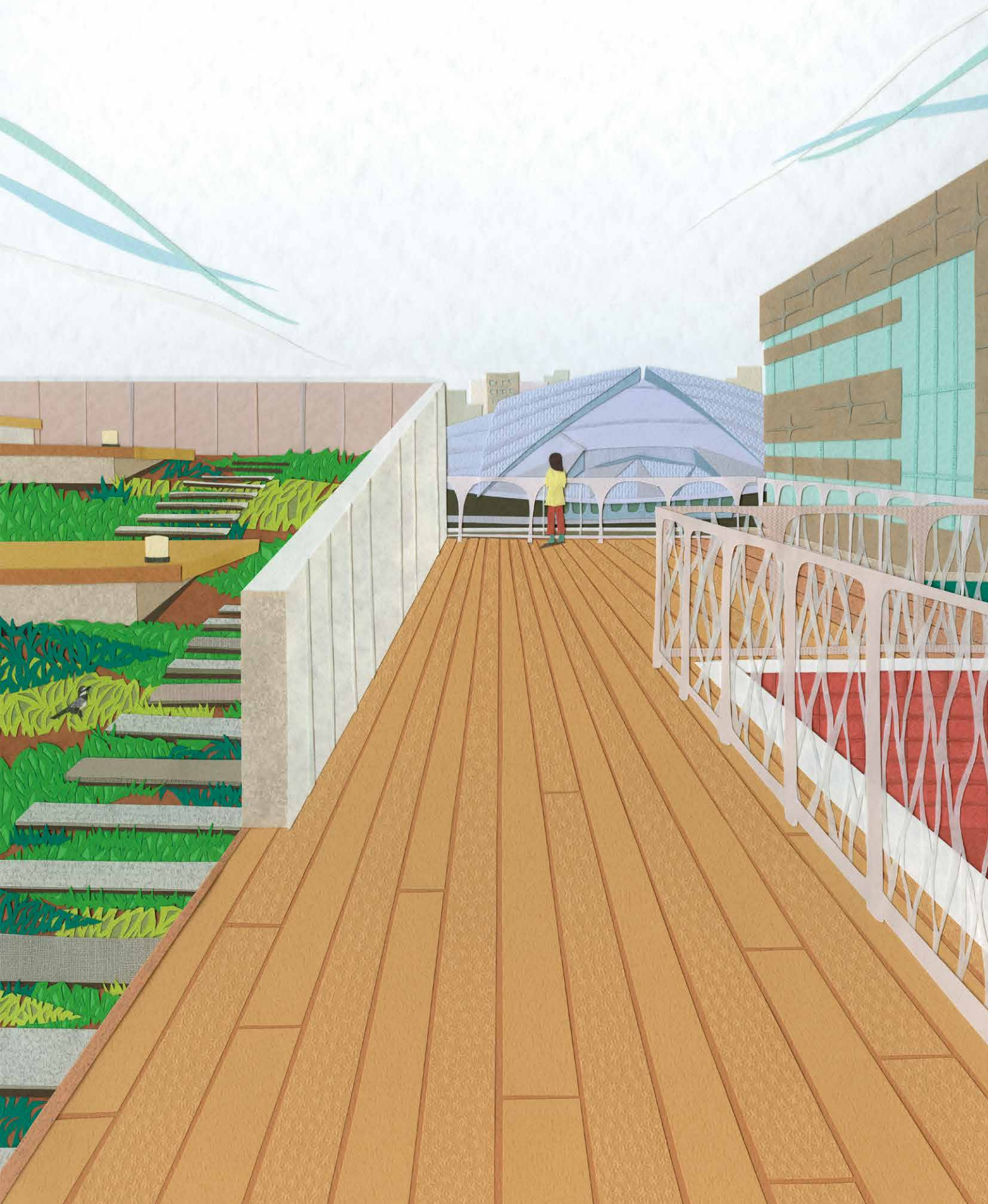


TSUDA TODAY

No. 137

津田塾大学

July 2026



2028年4月開設を目指して 「国際数理データサイエンス学部(仮称)」の 設置を構想中

学長 高橋 裕子

本学では2028年4月の開設を目指して、「国際数理データサイエンス学部(仮称)」の設置を構想中です。新しい学部は、現在の学芸学部数学科と情報科学科を改組して設置されるもので、「国際数理データサイエンス学科(仮称)」の1学科で構成されます。

本学は1900年に「女子英学塾」として誕生して以来、創立者・津田梅子の先駆的な理念である「all-round women」の育成を目指してきました。リベラルアーツ教育と高度な英語教育を軸に、1世紀以上にわたって日本の女子高等教育を牽引しています。

2020年以降、新型コロナウイルス感染症の拡大をきっかけに社会のIT化が急速に進み、さらに生成AIの登場によって現代社会の在り方そのものが大きく変わりつつあります。私たちは今、これまでに経験したことのない新たな課題に直面し、その解決を迫られています。現在の激変する社会では、情報数理に加え、大量のデータを基盤とした人工知能の仕組みを理解し、使いこなせる力が必要です。そして、新たな課題解決には、最先端の知識に加え、高度な能力を駆使し指導の立場で貢献できる女性が求められています。

本学の理事会では、こうした社会の変化を見通し、特定成長分野(デジタル)への学部再編等の申請を文部科学省に行い、2024年8月に採択されました。現在は国からの支援も受けながら、人工知能やデータの活用を通して現代社会の姿を多角的に捉え、数理・データサイエンスの基礎力を備えて新しい社会を先導できる女性



を輩出すべく、「国際数理データサイエンス学部(仮称)」の新設に向け動き出しています。2028年4月の開設に向け、理事会の下に新学部設置準備室が置かれ、中野美由紀代表室長を中心に教育体制の整備が精力的に進められています。

新学部では、生成AIの普及によってボーダーレス化が進む世界を生き抜くための力を育みます。具体的には、情報システムとその利活用に関する知識、実践的な英語力、そしてデータ解析力を支える数理基礎力を、丁寧な少人数教育を通じて育成します。また、新たに「国際キャリア形成科目」を設け、総合的な課題解決能力を養います。特に英語教育においては、海外大学との連携も視野に入れています。データサイエンスを中心とした課題に英語で取り組み、国内外でリーダーシップを発揮できる女性を育成していく予定です。

また、小平キャンパスでは、新たな学部の教育・研究の拠点となる新校舎の建築に向けた準備も始まっています。2028年1月に竣工予定の「新2号館」は、学生と教職員が日常的に交流し、共に学び、対話を通じて互いに刺激を受けながら、新しい知を生み出す空間を目指しています。設計においては、1階に学部運営や教育・研究を支える事務機能を集約。上階には研究室や院生室、セミナー室に加え、コワーキングスペースを配置します。これにより、学生が授業外でも主体的に学び、教職員との対話やグループワークが自然と生まれるような構成にしています。さらに、最先端のモノづくりができる「DFS(デジタルファブリケーションスペース)」を備えることで、アイデアを具体的な形にしていける実践的な学びにも対応します。外観は周囲の景観に馴染む落ち着いたデザインとし、内装の一部に木材を取り入れることで、隣接する玉川上水の豊かな緑との調和を図る計画です。今後、準備の進展に合わせて、新学部の詳細を順次お伝えしてまいります。

※構想の段階のため、学部学科名称、教育内容は変更となる場合があります。

※新2号館の設計は一部変更となる場合があります。



4階 コワーキングスペース



3階 コワーキングスペース



外観パース

国際数理データサイエンス学部(仮称)の学びの場となる新2号館の完成予想図です。

2026年度入学式式辞

学長 高橋 裕子



本学の前身、女子英学塾は、「英語教師の免許状を得ようと望む人びとのために、確かな指導を与える」ことが目的の一つでしたが、津田梅子は、女性に「高尚な働きを与えるこういう学校は、これからの婦人に無くてならぬもの」と考え、塾を創立しました。つまり、126年前から、専門的な学問を学び、プロフェッショナルな女性を育成する目的を掲げて本学はスタートしています。

その目的の実現には、教師の資格と熱心、それに学生の研究心を重視し、教師と学生の両者が、〈学びに対する真剣な姿勢〉(true spirit of workの意識)をもっていることが不可欠であると津田梅子は強調していました。

本学の卒業生は代々、「志の高い仲間」に囲まれていたことがよかったと言いますが、これは創立以来のスピリットでDNAなのです。

さて、女性管理職を増やす計画の策定を義務づけた「女性活躍推進法」は10年前の4月1日に施行され、今年は男女雇用機会均等法が施行され40年、という節目です。

均等法の生みの親は、本学卒業生の赤松良子さん。労働省婦人少年局長として法律の立案、制定に尽力しました。本学の卒業生は

3万人程度ですが、赤松さんのように女性の社会参画に多方面で貢献した卒業生たちの「長い列」があります。

例えば、ICT業界の旗手で、女性初のプロ野球球団オーナー南場智子さん。映画字幕翻訳家、戸田奈津子さん。慶應大学理工学部教授で、JAXAとの共同研究でも活躍する松尾亜紀子さん。卒業生たちの活躍の場の多様性に、みなさんは驚き、勇気づけられるでしょう。

2017年度に、本学は中長期計画「Tsuda Vision 2030」を策定しました。モットーは「変革を担う、女性であること」、ミッションステートメントは、「弱さを、気づきに。強さを、分かち合う力に。不安を、勇気に。逆境を、創造を灯す光に。」です。

そのモットーを体現するような卒業生と最近会いました。国際関係学科卒で、ミシガン大学の図書館で日本研究のライブラリアンを務める横田カーター啓子さんです。図書館には日本に興味をもつ学生がリサーチに訪れますが、日本の国会図書館の資料には海外からのアクセスが限られていて、諦めなくてはならない状態が続いていました。

しかし、横田さんは諦めませんでした。私が日米文化教育交流会議(CULCON)の委員で「デジタル化時代の情報共有とアクセス」の課題にも取り組んでいたことから、横田さんは国会図書館の資料を海外からも入手できることの重要性を説明に来ました。その熱意にCULCONメンバーらは感銘を受け、将来の日本研究者の育成に協働。状況は少しずつ改善されてきています。業務に真摯に取り組み、よい方向に変革できるよう全力を尽くす横田さんの姿勢は、まさに「変革を担う」女性であると思いました。

今、世界は経験したことのない、さまざまな問題に直面しています。それらを解決し、新たな時代に適合した社会システムの構想が社会の要請となり、女性の力がますます必要とされています。

みなさんがこの大学で学ぶアカデミックな基礎力や課題解決力、広く社会に貢献するだけでなく、新しい道を切り拓く糧になると信じています。みなさんが、社会をよりよい方向へと導く、推進力をもった人に育ち、津田塾大学の「長い列」に連なってくださることを期待しています。

「津田塾大学で学んでよかった」と、在学中、そして生涯にわたって思い続けられる、充実した4年間を過ごされることを祈念して、みなさんへの祝辞といたします。

2026年度入学者数

学 部	学 科	入学定員	1年次	2年次	3年次	4年次	計
学芸学部	英語英文学科	220	247	2	3	—	252
	国際関係学科	200	244	—	—	—	244
	多文化・国際協力学科	70	81	—	—	—	81
	数学科	45	50	—	—	—	50
	情報科学学科	45	51	—	—	—	51
総合政策学部	総合政策学科	110	125	—	—	—	125
学部合計		690	798	2	3	—	803

大学院	課 程	入学定員	1年次	2年次	3年次
文学研究科	修士課程	15	9	—	—
	(通常コース)	—	(6)	—	—
	(現職教員研修プログラム)	—	(0)	—	—
	(英語教育実践研究)	—	(3)	—	—
	後期博士課程	5	2	—	—
国際関係学研究科	修士課程	10	4	—	—
	後期博士課程	3	0	—	—
理学研究科	修士課程	10	9	—	—
	(数学専攻)	(5)	(3)	—	—
	(情報科学専攻)	(5)	(6)	—	—
	後期博士課程	3	1	—	—
	(数学専攻)	(2)	(1)	—	—
	(情報科学専攻)	(1)	(0)	—	—

注意事項

- 1) 文学研究科修士課程のコース人数は内訳
- 2) 理学研究科修士課程および後期博士課程は総数と専攻別人数(内数)を記載



2025年度卒業礼拝 奨励要約

「Shine Where You Are Called ～使命に目覚めた情熱は、人を動かし、変革はそこから始まる～」
コリント人への手紙第一12章14節～31節（新改訳2017）

堀江 徹氏（早稲田大学 大学院経営管理研究科（MBA）教授）

私は大学3年生でクリスチャンになりましたが、今日の聖書のコリント人への手紙第一12章14節～31節は好きな箇所です。体の中で、一つひとつの部分が大事で、弱く見える目立たないところもとても大事とされています。一人ひとり神様に愛されて創られて、一人ひとり違う役割が与えられていて、そのために生きていると思うと、自分が生きている価値というか、役割や使命を確信して歩むことができるのかなと思います。

卒業する皆さんにお伝えしたいと思うのは、まず、ぜひ楽しいと思うことをやっていただきたいということ。自分の弱みよりは強みは何だろうと考えて、自分にしかできないことが必ずあると考えること。人と比べずに、自分の目標をもち、それに向かって歩むこと。この3つを考えながら社会に出ていかれると、自分に自信がもてた時に、強くなります。津田梅子先生は、まさに変革のリーダーだと思いますが、リーダーは、作られるものであって、自分が使命だと思って輝いて何かやっていると、皆がついて来ます。強い使命をもって、これをやっている時が楽しい、これは自分にしかできないと思うと、その結果、変革のリーダーになっていくのではないかと思います。



2026年度新入生歓迎礼拝 説教要約

「あなたのための神の計画」 エレミヤ書29章11～12節（新共同訳）

柿内 ルツ氏（日本ホーリネス教団協力牧師）

皆さんに今日お伝えしたいことは、自分の核（コア）を見つけ、神の計画に生きるということです。津田梅子は6歳という幼少期に国費留学しました。すべての出会いと経験が「津田梅子」を作り上げました。その中で、彼女の一番の出会いとは8歳で神と出会い、救いを確信し成人洗礼を受けたことでしょう。

彼女が、米国でも日本へ帰国しても、差別や逆カルチャーショックがあっても、日本語を忘れても、日本人としてのアイデンティティを失わず、将来の日本のあるべき姿を見据えて、変革すべきところは変え、守るべき部分は守り、女性の地位向上と社会貢献という教育の目標をもって、一本筋の通ったぶれない生き方ができたのは、幼い時から生き方の中心に信仰をもっていたからです。彼女の特別な経験や出会いを見る時、どうしてもそこに神の計画があったと感じます。

新生活が始まりますね。新たな学び、人との出会い、楽しいこと嬉しいことがたくさんある一方で、思うように進まない、自身を守っていた殻が壊れる経験や失敗、思いがけない困難があるかもしれません。そんな時こそ自分の核（コア）を見つけるチャンスと捉えて下さい。そしてぜひ神と出会って下さい。



学位授与報告

博士の学位が以下のとおり授与されました。

渡邊 南（ワタナベ ミナミ）

- 現 職：東京都立産業技術高等専門学校ものづくり工学科一般科目（数学）助教
- 学位授与日：2026年3月18日
- 学位の番号：甲第20号
- 学位の種類：博士（理学）
- 論文題目：Scattering below the ground state for the nonlinear Schrödinger equation with exponential nonlinearity

津田梅子記念同窓会賞受賞者発表

津田塾大学同窓会では、成績・人物ともに優れ、奉仕の精神に富む4年生に対して、「津田梅子記念同窓会賞」を授与しており、このたび2026年度の受賞者が決定しました。みなさま、受賞おめでとうございます。

●学芸学部

英語英文学科 高橋 温子
国際関係学科 曾我部 小春
数学科 寺内 風花

情報科学科 佐藤 舞
多文化・国際協力学科 眞船 杏実

●総合政策学部

総合政策学科 藤崎 結羽

2025年度進路状況報告

2025年度の就職活動は、全国的に企業の採用意欲が高水準を維持する中、インターンシップを起点とした早期化・長期化が一層進んだ一年となりました。本学の就職決定率(就職希望者のうち就職先を決定した学生の割合)は96.8%と昨年度より微増の結果となりました。昨年度に引き続き、3年生の早い時期からインターンシップ参加に向けて動き出す学生や、それをきっかけに早期選考へ進む学生の姿が多く見られるなど、就職活動の早期化が一段と定着した一年であったといえます。

このような状況の中、本学の学生はさらなる就職活動の早期化に直面しながらも、変化する就職環境にしなやかに対応し「自分らしいキャリア」を選択している点が特徴として挙げられます。民間企業への就職においては、デジタル化の進展を背景に、IT業界への関心が引き続き高く、専門性を身に付けられる職種を志向する傾向が見られました。また航空業界の採用が活発化したことや、語学力や多様な価値観に触れる環境で培われたコミュニケーション力を活かしたいという背景から航空業界への就職数が増加しました。金融業界への

就職者数も増加傾向にあり、安定した人気を維持しています。

教員採用を取り巻く環境では、全国的な教員不足が引き続き社会課題となる中、本学においては今年度も高い教員就職率を維持しました。建学以来100年以上にわたり受け継がれてきた「教員の養成」の精神が、今日においても脈々と受け継がれていることがうかがえます。また、地方公務員を中心に公務員への就職率も引き続き高い水準を維持しており、地域や社会の課題を自らの課題として捉え、その解決に主体的に取り組む姿勢が評価されているものと考えられます。

学外学修・キャリアセンターでは、多様化する学生の進路ニーズにこたえるため、個別相談体制のさらなる拡充を図るとともに、卒業生による企業説明会や座談会など、多様なキャリアに触れる機会を設けました。またOG訪問においては、お忙しい中、後輩へのご支援をいただきましたOGのみなさまに、この場をお借りし心より感謝申し上げます。今後も本学では、学生の個性や価値観を尊重しながら、納得のいく進路選択を実現できるよう、全学的な連携のもと、きめ細やかな支援体制の強化に努めてまいります。

2025年度 卒業者進路状況

	学芸学部										総合政策学部		合 計
	英語英文学科	国際関係学科	多文化・国際協力学科	数学科	情報科学科	総合政策学科	総合政策学科	総合政策学科	総合政策学科	総合政策学科	総合政策学科	総合政策学科	
卒業者数	227	206	66	56	51	133							739
就職希望者数	197 (86.8%)	180 (87.4%)	60 (90.9%)	46 (82.1%)	43 (84.3%)	128 (96.2%)							654 (88.5%)
就職者数(決定率※)	191 (97.0%)	173 (96.1%)	57 (95.0%)	45 (97.8%)	41 (95.3%)	126 (98.4%)							633 (96.8%)
進学者数	12 (5.3%)	10 (4.9%)	1 (1.5%)	5 (8.9%)	8 (15.7%)	1 (0.8%)							37 (5.0%)
その他	24 (10.6%)	23 (11.2%)	8 (12.1%)	6 (10.7%)	2 (3.9%)	6 (4.5%)							69 (9.3%)

学科別 教員・公務員就職者数

	教員		公務員	
	専任	常勤・非常勤	国家	地方
英語英文	9	1	5	5
国際関係	4	0	4	6
多文化・国際協力	—	—	1	2
数学	2	5	1	0
情報科学	0	0	0	2
総合政策学	—	—	1	8
合 計	15	6	12	23

※多文化・国際協力学科と総合政策学科においては教職課程が設置されていないため該当者なし

就職先ランキング

学芸学部		総合政策学部	
日本航空(株)	10	富士通(株)	6
全日本空輸(株)	9	日本アイ・ビー・エム(株)	3
東京都(教員)	8	太陽生命保険(株)	2
(株)ビズリーチ(Visionalグループ)	5	森・濱田松本法律事務所	2
(株)NTTドコモ	4	ソフトバンク(株)	2
(株)千葉銀行	4	(株)朝日新聞社	1
(株)NTTデータグループ	3	(株)野村総合研究所	1
日本アイ・ビー・エム(株)	3	(株)三井住友銀行	1
日本電気(株)(NEC)	3	デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザー(同)	1
パーソルビジネスプロセスデザイン(株)	3	伊藤忠商事(株)	1

永年勤続 教職員表彰

永年勤続教職員表彰は、勤続20年、30年、40年の教職員の功績を称え表彰するものです。2026年3月31日をもって勤続年数が基準に達した右記の教職員が表彰されました。なお、3月31日付退職者には、「津田塾友」の称号も授与されました。

2026年3月31日付退職者表彰

大島 美穂 総合政策学科 教授

2026年4月1日付表彰

40年表彰

井上 則子

国際関係学科 教授

小池 勝美

情報サービス課システム・サービス室

鈴木 美佐紀

経営企画課

30年表彰

新田 善久

情報科学科 准教授

20年表彰

木村 朗子

多文化・国際協力学科 教授

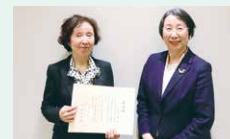
※表彰式は別日に実施

根本 博士

情報サービス課メディア・サービス室

大駅 康也

教育研究支援課



大島教授



木村教授



前列左から、井上教授、高橋学長、小池氏、鈴木氏
後列左から、根本氏、新田准教授、大駅氏

新任教員紹介



学芸学部 多文化・国際協力学科
助教 大倉 由布子

十何年ぶりに、今度は助教というカタチで津田塾大学に戻ってきました。専門は、メキシコとグアテマラに暮らすマヤ系先住民の織物文化の継承と希薄化のプロセスを明らかにすることです。感覚・感情人類学の視点から、エスノグラフィーの手法を使って、彼らの世界に近づこうとしています。よろしくお願いいたします。

学芸学部 数学科
助教 佐藤 真衣

このたび数学科に着任いたしました佐藤と申します。専門は紐の絡まり方について研究する結び目理論で、特にカンドルと呼ばれる代数系を用いた結び目図式の彩色に関する研究を行っています。長い学生時代を過ごし、現在の研究分野と出会えた母校で、助教として働けることを心から嬉しく思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



総合政策学部 総合政策学科
講師 鈴木 あい

専門は犯罪科学です。犯罪を物理的・社会的環境の観点から捉える環境犯罪学や、ランダム化比較試験（RCT）をはじめとする社会実験を通じて対策の効果検証を行う実験犯罪学の理論に基づき、警察・自治体などの実務家と協働しながら、犯罪抑止対策の効果検証に取り組んでいます。どうぞよろしくお願いいたします。



総合政策学部 総合政策学科
講師 山口 雄介

専門はミクロ経済学理論・ゲーム理論で、交渉における仲介者の役割や、現実に見られる単純な賃金契約が理論的にも最適となる環境などについて研究しています。授業では、1年次必修の経済学入門講義や、上級生向けの行動経済学の講義を担当いたします。どうぞよろしくお願いいたします。



新学部設置準備室
教授 堀江 郁美

今回で3度目の津田塾大学です。学生、助手、教授と戻るたびに所属学科が異なり、改革の節目ごとに本学に戻っていることに不思議な縁を感じています。

専門は情報科学・データサイエンス分野です。新鮮な驚きと懐かしさを感じながら、本学卒業生として学生の皆さんの主体的な学びを支える環境づくりに取り組んでいます。よろしくお願いいたします。

新任職員紹介

管理課
岡留 葵

前職ではシステムエンジニアとして、保険やクレジットカードのシステム開発に携わっていました。新しいことに挑戦したいという思いがあり、この4月より本学に入職しました。勤務して間もないですが、津田塾大学は知れば知るほど好きになる大学だと感じます。歴史ある本学をさらに発展させるため、常に学ぶ姿勢を大切にして努めてまいります。

教務課
飯塚 潤

前職では、別の大学で教務等の業務に携わっておりました。本学でも教務課の配属となり同様の業務ではありますが、全く新鮮な気持ちで取り組んでおります。本学の発展に貢献できるよう、干からびたスポンジなりにさまざまなものを吸収していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

教務課
鈴木 由利子

4月より新任職員としてお世話になっております。前職では大学職員として主に教務関連業務に携わっておりました。この度ご縁があり、津田塾大学の一員となれることを大変嬉しく思います。一日も早く本学のさまざまなことを吸収し、本学の発展に向け貢献出来るよう精進してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

学生生活課
村松 茉奈

4月より学生生活課に着任いたしました。前職では転職支援に携わっておりました。この度、ご縁をいただき自然豊かな母校に職員として戻ることができ、大変うれしく思っております。学生の皆さんに寄り添い、よりよい進路・就職支援に貢献できるよう努めてまいります。

津田塾大学2026年度事業計画

I 基本方針

自立した女性の育成のために、質の高いリベラルアーツ教育を目指した津田梅子が創立した女子英学塾の建学の精神は、津田塾大学の教育理念として、今日に至るまで連綿と受け継がれている。建学以来の伝統である高度な英語教育、少人数制セミナーを柱とする教育は、新学部、新学科、学科横断コースの設置や習熟度別クラスの導入などの工夫をさまざまに重ねつつ、それぞれの時代の要求する高度な能力を備えた人材を社会に送り出してきた。しかし、グローバル化の進展、生成AIの急速な普及等により学びを取り巻く環境は大きく変化している。また、少子化が加速し大学間競争が激化しつつある現在、本学は大学としてのミッションを再確認するとともに、迅速に改革を押し進め、他大学にはない個性と特色を打ち出す必要に迫られている。

津田塾大学では、2017年に中長期ビジョンTsuda Vision 2030を策定した。そして、Tsuda Vision 2030を着実に実現するために、2019年度に第1期中期計画(2020年度～2023年度)を立案し、中期計画の実行を進めている。2024年度からは、第1期中期計画の成果と課題に基づき、第2期中期計画(2024年度～2027年度)を立案し、中期計画に則って年度毎に事業計画を立て、各事業を実施している。本学における教育研究の成果の向上と強固な経営基盤の確立に繋がるよう、私立学校法や関係省令、大学設置基準そして寄附行為に則り、重点事業、各経常事業に取り組む。

第2期中期計画に基づき、2026年度事業計画では、以下を重点的に実施していく。(学部再編)

● 既存学部の再編、新たな数理・データサイエンス系統学部の設置による学部再編に向けて、学内の教育リソースの再配分計画を決定する。

(国際化)

● 国際的な人材の育成を重視し、国際交流の推進と留学生の受け入れ拡充に注力する。特にアジア圏を対象とした学生の募集に取り組む。

(キャンパス整備)

● 小平キャンパスマスタープラン全体修正計画案に則り、校舎や寮などの新築に向けて順次進めるとともに、本学のシンボルである本館(1931年建築)の天井改修、高圧受電設備(第2期)の更新工事などの整備を行う。

(経営)

● 改正された私立学校法・寄附行為に則り、理事会等機関の整備と、役割分担の明確化を行う。

● 教職員が本学の構成員であることに誇りを持ち、長期的に安心して勤務し、能力を発揮するための方策(職員組織や給与制度の見直し、教職員評価制度の策定)を講じる。

● 創立125周年記念事業募金を実施するとともに自主財源の拡大のため、資産運用額を毎年1億円増として資産運用の拡大を行う。

II 事業計画

1. 重点事業

2026年度は第2期中期計画に沿って以下の重点事業を実施する。

(学部再編に関する計画)

[1] 学部再編による新しい教育体制の構築

(国際化に関する計画)

[2] 国際化推進

● 国際交流の推進と留学生の受け入れ拡充を図る。

● 海外留学・経験の促進

(教育に関する計画)

[3] 学部カリキュラムの見直し

[5] 教育環境の整備

[7] 国家資格となる「登録日本語教員」への対応

(学生支援に関する計画)

[8] 学生生活の支援強化

[10] 学外学修・進路支援強化

(研究に関する計画)

[11] 研究の推進及び研究費の適正な管理

(社会貢献に関する計画)

[12] 社会貢献

(施設・設備整備に関する計画)

[13] 建築(小平キャンパスマスタープラン)

[15] 設備更新(情報関連)

(業務運営体制の整備に関する計画)

[17] 私立大学ガバナンス・コードを指針とするガバナンス体制の強化

[18] 教職員の中期的人事計画の策定、実施

[19] 教職員の安全で快適な就労環境の構築

[20] 個々の職員がポテンシャルをフルに発揮できる就業制度の構築と長時間労働の是正

[21] 業務分析、見直しの実施と、電子化の推進、業務の効率化、生産性の向上

[22] 認証評価

(資金に関する計画)

[23] 財政計画

(広報に関する計画)

[24] 広報活動

(記念事業に関する計画)

[25] 創立125周年記念事業

III 予算の概要

現在の経済情勢として、デフレからインフレに移行し、人件費、工事費、物価が高騰している。その影響は、本法人の運営にも多大な影響を及ぼしている。

2026年度予算の収入面について、学生生徒等納付金は、2025年度からの学費改定により、増収が見込めるものの、2028年度開設予定の新学部の設置の申請要件を満たすべく2026年度入学生定員の充足率を106%に抑える必要がある。そのため、学生生徒等納付金は、前年度予算比54百万円の増となる。補助金収入として、高等教育修学支援金

が前年度予算比320百万円の増となるものの、同額が奨学費として支出されるため、純粋な収入増とはならない。寄付金収入については、遺贈寄付の他、2024年度から募集している125周年記念事業募金の募集を継続することから、24百万円増とした。支出面では、冒頭に記した経済情勢から、人件費増、物価高騰(物価上昇率3%と想定)のほか、本館天井の全面改修の第2期工事、小平キャンパス高圧受変電設備更新工事(第3期)、千駄ヶ谷キャンパスAV機器更新工事を行うことから、(前年度予算比)教育研究経費514百万円増、管理経費3百万円減とした。なお、小平キャンパスマスタープランに伴う校舎等の建設に伴う費用は、第2号基本金の組入れ計画による基金と大学・高専機能強化支援事業による補助金を充当するため、収支に影響はない。

総じて、収入は微増であるにも関わらず、支出増が見込まれるため、2026年度予算の収支はマイナスとなる。引き続き、年間を通して支出の削減に努め、できる限り収支のバランスを整えていく。

上記状況のもとに予算を作成した結果、事業活動収支の経常収支差額はマイナス183百万円、基本金組入前当年度収支差額はマイナス210百万円となり、赤字の見込みとなっている。昨年に引き続き、新学部の設置要件を満たす定員充足率となる入学者数を確保しつつ、できる限りの支出削減に努め、財政の健全性を維持していく。

資金収支の翌年度繰越支払資金は536百万円であり、目安としている500百万円以上の手元資金を確保している。

以下、事業活動収支予算書と資金収支予算書について、2025年度補正予算に対する2026年度予算の主な増減とその要因、および特記すべき収入・支出を示す。

● 事業活動収支予算書

経常収支差額	△183百万円
特別収支差額	7百万円
予備費	△35百万円
基本金組入前当年度収支差額	△210百万円
基本金組入額合計	△1411百万円
当年度収支差額	△1621百万円

主な増減(前年度予算対比)とその要因

(単位:円)

	科目	増減	要因
収入	1 学生生徒等納付金	54百万円増	1年生は予算定員で計上 学費改定により増加
	2 寄付金	26百万円増	125周年記念事業継続
	3 経常費等補助金	281百万円増	経常費補助金376百万 高等教育修学支援421百万計上
	4 付随事業収入	1百万円増	入寮金、寮舎費3百万円増、公開講座1百万円増、受託事業3百万円減
	5 雑収入	45百万円増	退職金財団交付金収入29百万円増、施設設備利用料収入18百万円増、受託事業収入3百万円減
支出	1 人件費	122百万円増	教職員人件費:44百万円支出増 退職給与引当金繰入:47百万円増 賞与引当金繰入:31百万円増
	2 教育研究経費	514百万円増	高等教育修学支援奨学金:421百万円増 2号館解体:163百万円増

● 資金収支予算書

翌年度繰越支払資金	536百万円
-----------	--------

主な増減(前年度予算対比)とその要因

(単位:円)

	科目	増減	要因
収入	1 資産		

津田塾大学2025年度事業報告書(抜粋)

1. 事業の概要

(1) 重点事業

【法人】

2017年に中長期ビジョン「Tsuda Vision 2030」を策定し、それを着実に実現するために、2019年度に第1期中期計画(2020年度～2023年度)を立案・実行し、2024年度からは、第1期中期計画の成果と課題に基づき、第2期中期計画(2024年度～2027年度)を策定した。中期計画は、単年度の行動計画に具体化し、事業計画として実施されている。

第2期中期計画の重要な行動計画の一つの新学部「国際数理データサイエンス学部(仮称)」の設置に向けて、理事会では、適宜、新学部設置準備室からの検討状況の報告を受け、新学部設置準備室との意見交換を行うとともに、新学部の入学定員、学部・学科名称を決定した。また、理事会・評議員会・監事が新学部設置準備室との新学部設置について懇談し、新学部設置の構想を進めた。

第2期中期計画施設整備計画については、ウェルネス館を竣工し、小平キャンパスマスタープランに基づき、新2号館の基本設計、実施設計、新寮の基本設計を行い、2026年度からの新築工事に向けての準備を行った。2024年11月29日の理事会にて、内部統制システム整備の基本方針を制定するとともに、各種規程を整備、制定した。改正後の寄附行為に基づき、内部統制システム整備の基本方針に則り、コンプライアンスの推進、リスク管理、財務の健全性を確保に向けて、管理体制の充実と監査体制の整備を通じて、透明性の高い運営を推進していく。

【大学】

2025年度は第2期中期計画(4年間)の2年目であり、各分野の目標については概ね達成できた。第2期中期計画では、日本人女性として自然科学研究の先駆者の1人である津田梅子の精神を継承すべく、学芸学部を再編し理系学部を新設する計画を立てている。2025年度は、2028年度に設置予定の新学部「国際数理データサイエンス学部(仮称)」の設置に向け、新学部設置準備室において、ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)、カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施方針)、アドミッション・ポリシー(入学受け入れ方針)案の策定し、これに基づくカリキュラム案の策定とともに、新学部に着任する教員の採用活動を行った。

重点事業の一つである国際化推進については、新たな協定締結に向けて海外大学との交渉を進めるとともに、既存の協定校との協定を更新した。

2028年度からの3学部体制のもと、大学の理念である幅広い教養と深い専門性を備えた学生を育成するため、第2期中期計画に則り、次年度以降も引き続き計画を推進していく。

第2期中期計画に則る2025年度事業計画の重点事業として、以下の事業を実施した。

【1】学部再編による新しい教育体制の構築

- 3学部体制になってからの教養科目を提供する体制として全学共通科目について全学将来構想委員会にて検討を行った。決定は2026年4月に持ち越しとなったものの方針を定めることができた。
- 新学部における教育研究の拠点となる新校舎の建築を推進している。
- 理事会において新学部・学科の名称、入学定員を決定した。
- 理事会で決定した入学定員をもとに2028年度以降の各学部の教員数を設定、その設定に合わせて新学部設置準備室にて新学部の教員採用活動を行った。
- 2027年4月以降に文部科学省へ新学部設置の申請に必要な書類作成を進めた。

【2】国際化推進

国際交流推進のため、在学生向けの各種説明会やイベント(協定校関連の説明会、留学フェア、語学研修募集説明会、その他プログラム(の説明会など)、留学生との交流機会の提供(ビッグシスター制度の継続)等を行った。

また、私費留学生のリクルート活動を行った。

- アジア圏を対象とした学生募集
5/17～19: 第二回日本大学中国巡回教育展に国際センター長および経営企画担当COが参加し、学生募集に加え、現状調査、ニーズ確認等を行った。
- 日本留学希望者対象オンライン説明会への参加
8/29: ミヤンマー向け日本留学フェアに、学芸学部長、国際センター課長、中国人私費留学生が参加し、プレゼンテーションを行った。(説明会参加者: 289名、相談会参加者: 22名)
- 9/5: 中国の高校生へのオンライン説明会を開催した。(参加者: 608名)
- 入学体制の整備: 交換受入学生に実践的活動の機会を提供する。(インターンシップなど)
- 小市民国際交流協会(KIFA)より、地域での交流イベントの案内を受け、留学生(交換、私費)に周知した。参加人数は40名であったが、留学生が地域社会との交流機会を持てるよう引き続き広報を行う。
- 海外協定校との関係を維持すると同時に、新規協定校を開拓する。
- 2025年度に協定更新時期を迎える既存協定校3校(南京大学海外教育学院、香港樹仁大学、ハノイ国家大学外国語大学、および先方から協定内容変更(派遣留学生)の(本学学生の授業料半額免除への変更)の提案があったラッドル大学)について協定更新を完了した。
- 学生・ローレンス大学(アメリカ)との学生交流協定は、先方から財政的、学術的な障害があること、日本語を学ぶ方が減っていることから、協定の終了を提案され、更新に至らなかった。米国の大学については、新たに1件の女子大学(Cottery College)と学生交流協定を締結する方向で協議を進めている。

- 以下の大学と協定締結に向けて協議中である。
インドネシア大学、ハサマティン大学(インドネシア): 包括協定および学生交流協定
アイスランド大学: 包括協定および学生交流協定、SOAS(英国): 修士課程 Dual Degree、カールトン大学(米国): 学生交流協定
- 第2期中期計画にあるとおり、2027年度末までに、年間300名の派遣(短期、長期)、および100名の受入(協定、私費)を目指し、段階的に体制を整備する。
- 2027年度末の派遣・受入人数の目標値に向けて、学内広報活動の強化、私費留学生のリクルーティングを強化している。

- 2025年度の派遣・受入の実績は以下の通りである。
派遣 合計 197名
長期: 協定校29名(コルゲートランゲージインターンを含む)、私費留学生: 46名
短期: 大学主催語学研修 100名(夏期54名、春期46)、その他(私費留学)22名
受入れ 合計46名、交換受入生: 31名(延べ人数)、私費留学生: 14名
特別研究生(国際関係学研究所): 1名

- 24年度新規研修プログラム(セントヒルダプログラム)の内容を精査し、必要に応じて改善するPDCAに取り組む2024年度第1回目のセントヒルダプログラムを実施した。国際センターおよび業務委託先の旅行会社が実施した事後アンケートの結果をもとに旅行会社と打ち合わせを行い、学生募集時の説明内容、事前・事後研修等の内容について改善案を検討した。2025年度夏期に2回目、2025年度春期に3回目のプログラム実施をし、その際に改善案を反映した。

- 国際化推進のための以下2件講演会を、津田塾大学125周年記念事業/国際化推進事業として実施した。
・6月5日(木)ロジャー・バルバース氏による講演会(「ラファエラ・ハーン 生誕175周年を考える」): 約320名
・11月4日(火)ロジャー・バルバース氏監督の「星砂物語」上映会(上映会に監督、映画プロデューサー等が出席し、上映後にQAセッションを実施)参加者: 約25名
- 地域社会と連携した国際化推進のための企画(留学生と地域の高校生との交流など)に協力する。
一小市民国際交流協会(KIFA)より、地域での交流イベントの案内を受け、留学生(交換、私費)に周知した。参加人数は40名であったが、留学生が地域社会との交流機会を持てるよう引き続き広報を行う。
- 以下の通り、奨学生の募集を行い、奨学金を支給した。

- ・長期留学向け
バイオニア・スカラシップ: 2025年度に協定校留学を開始した3名(プリンマー大学1名250万円、アッパーオーストラリア応用科学大学1名250万円、国民大学1名100万円)に奨学金を支給した。
- ・短期留学向け
海外語学奨励奨学金(8万円/人): 前期17名、後期25名
海外活動奨励金(8万円/人): 前期16名、後期5名
・文学研究科見入重入学生海外研究支援奨学金: 応募者なし

【3】学部カリキュラムの見直し

- 英語英文学科では、2028年度からの学部再編とタイミングを合わせたカリキュラム改革において、1年次必修の「基礎セミナー」の内容の見直しを行った。文章作合法や大学資源の活用方法など、一般的なアカデミック・スキル等の習得のみならず、生成AIの適切な利用方法や、学修のスケジュール管理やセルフマネジメント、あるいは健全な生活習慣までをカバーする内容とした。
- 英語英文学科では2026年度より、「実験的課題」の枠を利用し、大学での学びにおける生成AIの活用方法を学生とともに検討するワークショップ形式の授業を開講する予定である。この授業を通して得られた結果は、「基礎セミナー」その他の初年次教育の内容にフィードバックを行う。
- TECCでは、年度末に、科目担当教員全員を対象としたアンケート調査を実施し、その結果を授業改善に活用している。本年度は、このアンケートにて、当該科目担当者に対して使用テキストの改訂に関する意見を尋ねる

究者を対象に実施し、27名が参加し、好評を得た。また、授業「総合」において、本学卒業生で教員の講演会企画を実施し、他部署との連携の中で支援の充実を図った。

- 各研究所の紀要等を本年度もリボジトリで公開し、情報開示に努めている。
- 女性研究者を育成する各種支援事業を継続し、その一つである「スタートアップ研究支援事業」という制度において、若手研究者の独創的な研究を支援し、外部資金等の獲得を推進することを目的として、応募1件あたり20万円の助成を実施した。2025年度には3名の研究者の利用があり、結果、改革総合支援事業タイプ2の実施要件のひとつである「若手研究者の活躍に向けた環境の整備」を達成、獲得に至った。
- コンプライアンス研修を7月に実施し、理事、評議員、監事および教職員への啓発活動を完了した(139名)。
- 2025年度は2名のURAを配置している。

[13] 社会貢献

- 山根ギャラリーの展示は以下を開催した。
 - ・前期「命をみつめる」山内若菜作品展 2025年5月14日(水)～6月24日(火)【来場者数:約250名】
 - ・後期「平和の轍を繋げる―ケーテ・コルヴィッツ展 2025年10月1日(水)～12月18日(木)【来場者数:約500名】
- ※赤松良子展-「均等法の母」の足跡をたどる 2025年3月17日(月)～2025年4月11日(金)(主催 津田梅子資料室)
- その他のイベントとして、以下を開催した。
 - ・前期「アイスランド大統領と考える ジェンダー平等のつくりかた」 2025年5月31日(土)【参加者数:約300名】
 - 吉永小百合 朗読会 わたしたちは何をみたか-哀しみから新しい希望に向かって- 2025年5月31日(土)【参加者数:約400名】
 - ・後期「社会学者上野千鶴子が語る「変革を担う、女性であること」(講演会) 2025年9月6日(土)【参加者数:553名(一般272名、卒業生132名、在学生103名、教職員46名)】
 - ケーテ・コルヴィッツ展ギャリートーク 2025年10月19日(日)【参加者数:約60名】
 - ※記念講演・対談「倉茂由美子が語る「変革を担う、女性であること」- 2025年10月12日(日)(2025年度 津田梅子記念会&ホームカミングデー 創立125周年記念式典 午後の企画として開催した)【参加者数:約100名】
- 女性リーダーシップ育成プログラムについては、2026年度開催予定の「AI時代のオールラウンドウーマン」育成プログラム」が検討、準備を進めた。

[14] 建築(小平キャンパスマスタープラン)

- 新2号館の基本設計及び実施設計を行った。
- ウェルネス棟(仮称)が竣工し、「ウェルネス館」と命名された。2026年3月5日に竣工式を挙行し、26名が出席した。
- 寮の新築の基本設計が完了した。
- 緑地保存計画に基づき、育成したサクラの苗木を6本植樹した。

[15] 設備更新(建造物関連)、修繕

- 本館天井改修工事(第1期)が完了した。
- 計画に基づき、AV機器の更新を行った。
- 大学ホール玄関底階床、1号館旧棟空調機の更新を行った。
- 一部教室(H315)にPC用電源コンセントを設置した。
- 防火シャッターの経年劣化部品(7号館バッテリー)、南校舎の中間モニターを更新した。
- 非常用放送設備の更新に向けた調査を行った。
- 小平キャンパスの電話交換機、星野あい記念図書館(丹下館)空調機、高圧受変電設備(第2期)、6号館のトイレを更新した。
- 記念館外廊下天井落下防止対策工事を行った。
- 1号館、大学ホール及びキャンパス外構の照明、特別教室の長机・椅子を更新した。

[16] 設備更新(情報関連)

- ICT環境の利便性向上および教育設備の整備として、2025年8月に本館4階、新館、1号館、記念館、大学ホールへの無線アクセスポイント増設対応を完了した。併せて、南校舎WS教室(3教室)についても中間モニターの更新を計画し、同月中にすべての工事および動作確認を終了している。
- 5号館 AVライブラリーは資料の一部を図書館に移管し引き続き視聴可能とし、ライブラリーとしての機能から学生が自習で使えるスペース「アカデミック・サポート・オフィス」と改修を行った。
- 5号館 CALLシステムについては、システム選定のためのWGを立ち上げ2026年8月までに方を定めることになった。

[17] 省エネ対策

年間1%のエネルギー使用量削減を目標として、更新後の機器の省エネルギー性能に配慮し、以下の工事を実施した。

- 1号館、大学ホール及び小平キャンパス外構の照明(LED)、1号館旧棟空調機の更新を行った。(省エネ)

[18] 私立立大学ガバナンス・コードを指針

- 日本私立大学連盟の「私立大学ガバナンス・コード」(第2.1版)を大学運営の指針とし、改正私立学校法に則り、「内部統制システム整備の基本方針」を整備し、公表している。
- 改正後の寄附行為に則り、理事選任会議を設置し、役割分担を明確化した上で、理事会、評議員会を運営している。
- 本年度のガバナンス・コード遵守状況を点検し、各基本原則を遵守していることが確認されており、本報告書については理事会での機関承認及び私大連への報告を経て公式Webサイトに公表している。

[19] 教職員の中期的人事計画の策定、実施

- 2025年1月の理事会にて、職員組織・給与制度・評価制度WG(以下、WGという)結成報告の後、貢献度に応じた成長支援型評価制度や評価の動向手当への反映等教職員評価制度の具体案の検討、主任制導入等職員組織改革案の検討を中心に、2025年10月の理事会にて、検討案の中間報告を行った。2026年2月には、同WGから、制度の具現化について職員への説明会を開催し、その後同制度に対するアンケートを行い、その結果を年度内で公表した。2026年3月の理事会にて、説明会とアンケート結果を踏まえた総括と、2026年度以降における制度具現化に向けた活動予定について報告を行った。また、キャリア・ディベロップメントワーキンググループ(CDWG)においては、この間に、WGからの依頼を受けて、人事評価制度に関する規程の素案を作成した。今後は、職員へのアンケート結果を可能な限り反映する制度に仕上げていく。
- 職員には、年度の目標設定前に、目標設定に特化した評価者研修、被評価者研修を実施し、目標設定に対する意識の向上を図った。
- 教員評価制度については、教員評価制度WGを結成し、2025年7月より検討を開始している。2025年12月にアンケート調査を実施し、その結果の検証を行った。

[20] 教職員の安全で快適な就労環境の構築

- 「事業場における心の健康づくり計画」に基づき、前期はメンタルヘルス研修(セルフケア)を実施し、71名が出席、後期には、管理監督者を対象としたライクンケア研修を実施し、51名が参加した。
- 教職員を対象にコンプライアンス研修を対面で実施し、コンプライアンス意識の向上を図った。後日録画を視聴した教職員を含め134名が参加した。
- 「アカデミック・ハラスメントを防ぐために - 教職員に求められる理解と対応 -」をテーマとし、「教職員のためのハラスメント防止のための研修会」を実施し、139名の教職員が参加した。加えて、学生対象の研修会として「レイシャルハラスメント:安全な学習環境のために」を実施し、後日、教職員のためのハラスメント防止サイトにて、録画を公開し、15名の教職員が視聴した。

[21] 個々の職員がポテンシャルをフルに発揮できる就業制度の構築と長時間労働の是正

- 教職員に対し、育児・介護に関して利用できる措置について更なる周知を行った。
- 長時間労働を抑制するため、事務室の19時30分消灯を徹底した。
- 部署により、時間外労働の前年度比増減が生じているものの、時差出勤制度、テレワークの活用を継続している。

[22] 業務分析、見直しの実施と、電子化の推進、業務の効率化、生産性の向上

- ペーパーレス化の取り組みとして、非常勤講師契約書の契約手続きを電子化した。また、学長から手交する発書以外には原則、発令書の発行を取り止め、発令簿により教職員に周知することとした。
- 給与明細書の電子発行に向けた準備を開始した。
- 過半数代表者選挙において、電子投票に移行した。
- 非常勤講師の採用に関する書類の送付を一部電子化した。

[23] 認証評価

- 大学評価(認証評価)結果を受領後、外部評価委員会からの意見及び助言と併せて学長室・大学運営会議等に報告し、改善事項については大学運営会議から関係部局に対し改善指示を発出した。大学運営会議のマネジメントのもと、学士課程における共通評価基準の導入や大学院研究指導計画の明示等、複数の点で改善を確認した。また、第4期認証評価に向け内部質保証体制の再整備及び新基準に則った自己点検・評価活動を実施している。
- 本学の内部質保証体制に従い、定期的な点検・評価に基づく改善・向上を図るとともに、評価の客観性を高めるため外部評価委員会を開催し、外部委員による意見・助言を得て改善に取り組むことができた。

[24] 資金計画

- 2025年度は第2期中期計画の中間にあたるため、第2期財政計画の検証を行うとともに、2026～2035までの収支の検証を行い、財務・事業計画会議で報告の後、理事会で報告を行った。
- 私学法の改正により、2025年度決算に限り過年度分の賞与引当金を計上するため、基本金組入前当年度収支差額が▲134百万円となり、「事業活動収支差額比率▲2.7%」となったが、「人件費比率54.0%」「教育研究経費比率38.9%」となり、財政指標を達成し、健全な財政を維持している。
- 金融機関の定期預金の利率が向上し改善されたことを踏まえ、資産運用会議の審議結果に基づき、1ヶ月から1年の定期預金とし、社債を購入することで、資産運用に努めた。

[25] 広報活動

- 創立125周年に関するブランド力向上を図るべく、本学のHPをはじめ、WEB・紙媒体の広告、125周年記念に関連する告知を掲載した。また、高校での説明会、外部会場でのごガイダンスなどにおいて、対高高校生・保護者

に対して125周年の告知を行った。

- 寄付金募集については、125周年記念事業事務局において創立125周年記念事業募金趣意書をイベント等で配布し、募金募集を強化した。また2026年1月1日付で募金管理

津田塾大学へのご支援

創立125周年記念事業募金
ご協力をお願い

本学は、津田梅子の建学の精神に基づき、今日にいたる伝統を受け継ぎつつ「変革を担う女性」の育成を目指して教育、研究の一層の充実発展を図るべく、「創立125周年記念事業募金」を実施しています。本学の教育研究環境は、これまでも同窓生をはじめとする社会の皆様のご芳志に支えられて築かれてまいりました。「創立125周年記念事業募金」につきまして、3つの記念事業を推進するため、ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

記念事業

1. 国際化のさらなる推進事業

- (1) 奨学金等による海外への学生派遣・留学生受入の支援、国際化イベント等実施
- (2) 海外大学院とのデュアルディグリープログラムの実現
- (3) 新寮建設による留学生を含めた学生支援

2. 女性IT人材育成事業

- (1) 数理・データサイエンス・AI教育の強化
- (2) 理系新学部部の拠点となる校舎（新2号館）の建設

3. 地域連携活動の強化 ウェルネスの拡充事業

- (1) 生涯教育モデルの実現
- (2) 連携推進センター活動と女性キャリア支援
- (3) ウェルネスの拠点となる施設の建設

※2026年2月ウェルネス館竣工

寄付金募集要項

1. 寄付金目標額 3億円

2. 募集期間 2024年4月1日から2028年3月31日まで

3. 寄付金の種類 (1) 個人の寄付金

1口 1万円

(2) 法人の寄付金

1口の金額は特に定めておりません。

4. 申込および払込方法

(1) 金融機関

Webサイト(<https://support.tsuda.ac.jp/method/index.html>)より「寄付申込書」をダウンロードのうえご記入・ご提出(申込)後、振込先銀行口座をお知らせいたします。



(2) クレジットカード

インターネットからお申込みができます。詳細は、Webサイト(<https://kifu.fm/tsuda/form.php>)をご参照ください。



5. ご寄付をいただいた皆さまへの礼遇について

(1) 銘板への掲載

ご寄付を賜りました方々のご芳名を、新2号館内に設置予定である銘板に末永く顕彰させていただきます。また、報告書等では、ご芳名および寄付額を公表させていただく予定です。

(2) 記念品の贈呈

創立125周年記念事業募金の寄付の累計額が30万円以上※に到達された方には、返礼品として創立125周年記念事業募金の顕彰用に企画されたオリジナルの「漆塗りボトル」または「漆塗りタンブラー」を贈呈させていただきます。

※2024年4月1日～の累計とさせていただきます。

また、1口以上ご寄付いただいた方にはお礼の品をお送りさせていただきます。詳細は本学公式Webサイト <https://support.tsuda.ac.jp/projects/125th.html> でお知らせいたします。



寄付金に対する税制上の優遇措置について

寄付控除

学校法人津田塾大学への寄付金は、所得税、法人税、相続税の税制上の優遇措置が受けられます。

<https://support.tsuda.ac.jp/benefits/tax.html>



ふるさと納税を活用した学校法人支援

本学は、渋谷区「ふるさと納税を活用した学校法人支援」事業団体に指定されています。これにより、ふるさと納税制度を通じて本学へのご支援が可能になるとともに、ご寄付者は、所得税や住民税の控除を受けられます。

※返礼品はありません。

https://furusato-shibuya.jp/cf_school/detail.php?unid=cc941ca45261f6e79d1d2fda2ff21ed5



遺贈による寄付

津田塾大学は、創立以来、多くの方々の援助により支えられ、発展してまいりました。本学では、本学の教育研究活動をさらに発展させるために、遺言により財産の一部を寄付しようという篤志をお持ちの方々の便宜を図るよう、信託銀行と提携して「遺贈による寄付制度」を設けております。また、津田塾大学へ財産の遺贈があった場合は、原則として、その遺贈財産は非課税財産となります。

この制度にご関心のある方は、本学経理課までご相談ください。提携銀行のご紹介など、ご意向に沿った遺贈がなされるようご支援させていただきます。

●お問い合わせ：経理課 TEL：042-342-5125 E-mail：keirika@tsuda.ac.jp
<https://support.tsuda.ac.jp/projects/bequest.html>



寄付者ご芳名（2026年2月1日から2026年4月30日現在 掲載承諾者のみ）

サポート＜津田スピリット＞募金 創立125周年記念事業募金

穴沢 素子 様 田口 裕樹 様
石渡 純子 様 藤野 昌子 様
和泉 順子 様 向井 祐介 様
板垣 絵里 様
太田 香 様 大島美穂退職記念の会 様
岡本 恵子 様
下村 展子 様 匿名 5名

サポート＜津田スピリット＞募金

●学修環境整備（小平キャンパス） ●教育振興資金
遠藤 みどり 様 萩谷 友紀 様
加藤 大雄 様
匿名 1名 匿名 3名
●その他
匿名 2名

サポート＜津田スピリット＞募金 受入れのご報告

2024年度に開始した創立125周年記念事業募金は、みなさまからのご厚志により、目標金額3億円を上回るご寄付を賜りました。心より御礼申し上げます。2025年度には、教育振興資金などを含めた「サポート＜津田スピリット＞募金」として統合し、賜ったご厚志に沿って募金を管理運営できるよう、体制を整備しました。この体制のもと、募金による事業計画を策定し、計画に沿って使用させていただきました。この度、『2025年度「サポート＜津田スピリット＞募金」実施報告書』として取りまとめましたので本学の特設サイト (https://support.tsuda.ac.jp/FY2025_report.html) でご確認いただきますようお願いいたします。

たくさんのご寄付のもと事業が実施できたことに感謝申し上げます。引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。



サポート ＜津田スピリット＞ 募金 受入れ状況	集計期間:2024年4月1日～2026年3月31日 募金件数:1,000件 募金総額:522,459,706円
創立125周年記念事業募金	891件 380,120,630円
新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急募金として	7件 250,001円
教育振興資金	38件 6,154,274円
学生支援(留学生派遣)	4件 1,025,000円
学生支援(留学生受入)	1件 1,000,000円
学生支援(学外学修・海外活動)	3件 140,000円
学修環境整備(小平キャンパス)	20件 2,599,602円
学修環境整備(キャンパス連携)	1件 50,000円
学修環境整備(千駄ヶ谷キャンパス)	2件 40,000円
その他	33件 131,080,199円
※受配者指定寄付を含む	

登録日本語教員養成機関・登録実践研修機関に登録されました

津田塾大学は、令和8（2026）年4月30日付で文部科学省より「登録日本語教員養成機関」および「登録実践研修機関」として登録されました。今回の登録を受け、本学では新制度に対応した質の高い日本語教育人材の養成をさらに推進してまいります。

2027年度以降の入学生より、新制度に対応した課程を提供いたします。カリキュラムの詳細や履修方法については、本学公式Webサイト等で順次お知らせいたします。

●登録の概要

登録 日:令和8(2026)年4月30日
養成業務開始時期:令和9(2027)年4月1日
研修事務開始時期:令和12(2030)年4月1日

理事会・評議員会開催報告

第350回理事会

2026年1月30日

【審議事項】

1. 学長の専任教員としての任期及び「学長の任期に関する規程」の改定に関する件
2. 資産運用管理規程の改定に関する件
3. 新学部設置準備室の人事に関する件
4. 新学部・新学科の名称に関する件

【報告事項】

1. 新学部設置準備状況について
2. その他

第351回理事会

2026年3月6日

【審議事項】

1. 第2号基本金の計画変更に関する件
2. 2026年度事業計画(案)に関する件
3. 2026年度予算(案)に関する件
4. 「新学部設置準備室設置要項」の改定及び新学部設置準備室の人事に関する件
5. 津田塾大学学則の改正に関する件
6. 津田塾大学大学院学則の改正に関する件
7. 評議員会の招集および議案に関する件

【報告事項】

1. 新学部設置準備進捗について
2. 10年収支予測について
3. その他

第210回評議員会

2026年3月27日

【諮問事項】

1. 第2号基本金計画変更に関する件
2. 2026年度事業計画(案)に関する件
3. 2026年度予算(案)に関する件

【報告事項】

1. 新学部設置準備状況について
2. 2025年度事業計画に係る中間報告について
3. 小平キャンパス建設・改修について(ウェルネス館・新寮・新2号館建設・本館天井改修)
4. 規程の制定及び改定について
5. その他

第352回理事会

2026年3月27日

【審議事項】

1. 第2号基本金の計画変更に関する件
2. 2026年度事業計画(案)に関する件
3. 2026年度予算(案)に関する件
4. 学長の任期に関する規程改定に関する件
5. 新学部設置準備室人事に関する件

【報告事項】

1. 新学部設置準備状況について
2. 次期学長室の体制について
3. 2025年度内部監査報告について
4. 2025年度卒業式について

5. 理事長・代表業務執行理事及び業務執行理事の職務執行報告
6. ウェルネス館の竣工について
7. 新2号館に係る実施設計の経過報告について
8. 職員組織・給与制度・評価制度検討WGによる検討状況報告
9. その他

第353回理事会

2026年4月24日

【審議事項】

1. 新学部の人事に関する件
2. 理事の競業に係る個別承認に関する件
3. 役員賠償責任保険の契約更新に関する件

【報告事項】

1. 名誉教授称号授与及び津田塾友の称号授与について
2. 2026年度内部監査計画について
3. 2026年度入試志願者状況と入学者数について
4. その他

海外からの本学訪問 米国フルブライト国際教育職員プログラム(IEA)参加者

2026年6月18日(木)、本学千駄ヶ谷キャンパスに、フルブライト国際教育職員プログラム(IEA)の一環として米国の大学国際業務関係者7名、および日米教育委員会フルブライト交流部マネージャー1名が来学されました。本学からは高橋学長、菅副学長、新居国際・学生担当チーフオフィサー、5名の職員が参加しました。

高橋学長による歓迎の挨拶では、フルブライトスカラーとしてのご自身のご経験や、津田塾大学がこれまでどのように女性をエンパワーしてきたかが語られ、続いて菅教学・国際担当副学長が津田塾大学および本学の国際交流プログラムになどについてお話しされました。その後本学の職員とのディスカッションの機会が設けられ、それぞれの担当業務の日米の比較や課題について活発な議論が交わされました。

米国留学から帰国した本学学生との懇談においては、留学先で培った確かな語学力と経験をもとに、学生たちが米国での学びや気づきを共有しました。IEA参加者からも関心に満ちた質問が次々と寄せられ、学生達がそれに対して生き生きと応じる姿が非常に印象的でした。日米の教育の未来をつなぐ、大変有意義で活気あふれるイベントとなりました。



女性参政権運動の歴史を辿る展覧会を開催—— シルヴィア・パンカーストゆかりの貴重な書籍のご寄贈も

「女子英学塾の「翻訳力」と女性参政権運動展」(創立125周年記念事業)を津田梅子記念交流館にて開催しました。この展覧会は、日本の女性たちが参政権を行使して80周年であることを記念し、日本における女性参政権獲得への道のりを、女子英学塾の関係者が海外の思想を「翻訳」というかたちで日本に紹介することを通して下支えしてきた貢献に光をあてたものです。例えば、国内の女性地位向上や教育に尽力した本学元学長・藤田たきは、英国の運動を主導したシルヴィア・パンカースト氏の著作を日本で初めて翻訳しました。当時の歴史的資料や写真の数々を通じ、困難な時代を切り拓いた女性たちの情熱と、本学が果たした先駆的な役割を再発見する展示となりました。

また、シルヴィア氏の孫で活動家のヘレン・パンカースト氏(マンチェスターメトロポリタン大学教授)を本学に招聘した折に、シルヴィア氏が生涯大切に保管されていた、氏の直筆サインが入った19世紀末の日本の図案集という大変貴重な書籍をご寄贈いただきました。ヘレン氏より、「貴学がお持ちになるのが最も相応しい」と、学長に手渡されました。この温かいご厚意により、パンカースト家と本学の深い歴史的絆を象徴する「宝物」が新たに本学に加わりました。



女性参政権運動のシンボルカラーのスカーフをまとったパンカースト氏(左)・高橋学長(右)



展覧会の様子

海外からの本学訪問 ハサヌディン大学

2026年4月6日、本学小平キャンパスに、インドネシアのハサヌディン大学インターナショナルオフィス長のAndi Masyitha Irwan氏、教学・学生担当副学部長Syahrul氏、移民法担当職員のDra. Harniati氏と、学生交流担当職員Kumara Tungga Dewa氏の計4名が来学しました。

本学からは、高橋学長、菅教学・国際担当副学長、小島学芸学部長、光成国際関係学科准教授、新居国際・学生担当チーフオフィサーと、国際センター職員が対応しました。

ハサヌディン大学とは、昨年7月、高橋学長と新居国際・学生担当チーフオフィサーが日本ーインドネシア学長会議に参加した際に、会場校であった同大学の教職員と打ち合わせを行ったことにより交流が始まり、この訪問が実現しました。ハサヌディン大学の留学生向けサマーコースの案内や、教員、学生の交流の可能性についてなど活発な意見交換が行われました。



昼食後、学生によるキャンパスツアーが行われ、特に竣工したばかりのウェルネス館にご興味をおもちいただき、時間をかけて見学されました。ハサヌディン大学とは、今後包括協定、学生交流協定を締結し、学生の派遣・受入を行う予定です。

ようこそ津田塾大学へ(留学生紹介)

2026年4月に8名の交換留学生在が津田塾大学に入学しました。皆さま、どうぞよろしくお願いいたします。

●メトロポリタン自治大学(メキシコ)

JIMENEZ MENDOZA YARELY VANESSA(ヒメネス メンドサ ヤレリ バネッサ)/英語英文学科

●CYセルジー・パリ大学(フランス)

CAMARA FATOUMATA(カマラ ファトゥマタ)/国際関係学科

MOULOUD JENAH MALIA(ムルドゥ ジェナ マリア)/国際関係学科

●梨花女子大学校(韓国)

PARK JIWON(パク ジウオン)/国際関係学科

NAM IJIN(ナム イジン)/情報科学科



●国民大学校(韓国)

SONG SIHYUN(ソン シヒョン)/国際関係学科

●淡江大学(台湾)

HSU YA HAN(キョ ガ カン)/国際関係学科

TSENG YI CHIAO(ソウ イ キョウ)/国際関係学科

(大学別)

2025年度第3・4ターム 授業に関するアンケート実施結果

2025年度第3・4タームの授業に関するアンケートを11・1月に実施しました。延べ49,658人の履修者数に対して回答者数は17,024人、回答率は34.3%でした。設問1～12、18～25は、授業が適切に実施されていたかの評価となっており、すべての設問において4点以上と高評価を得る結果となりました。設問13～15、17は、学生が自分自身の受講姿勢を振り返る設問となっております。昨年度同時期から特に改善した項目は、13学生の静寂さへの努力、22学修状況・理解度の把握、25教員は時間を守ったかの3つです。昨年度同時期から評価が低かった項目は、17授業時間外の学修時間です。

これら結果については各学科・関連委員会等で確認し、問題点の共有・検証・改善を行っており、その取り組み状況を全学教務委員会において確認しています。今後もアンケートを実施し、活用していきます。

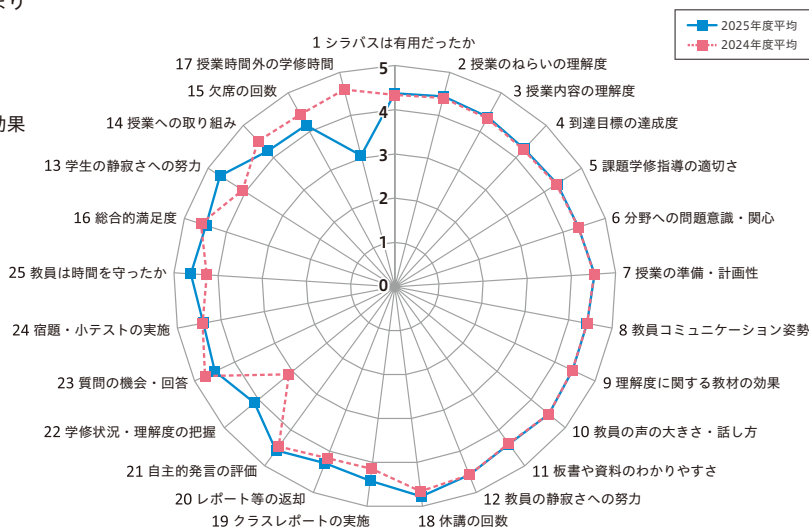
授業に関する設問

- この授業を受講する際に、シラバスは有用でしたか。
- 各回の授業のねらいは明確に理解できましたか。
- 各回の授業の内容は理解できましたか。
- 授業で到達目標としている内容が身についたと思いますか。
- 課外学修の指導（参考文献の提示、文献の調べ方など）は適切でしたか。
- この授業を受講して、テーマとする分野への問題意識や関心が深まりましたか。
- この授業はよく準備・計画されていたと思いますか。
- 教員は受講者とコミュニケーションをとる努力をしていましたか。
- 教科書・授業レジュメプリントや参考文献は、講義内容の理解に効果的でしたか。
- 教員の声の大きさと話し方は適切でしたか。
- 板書やパワーポイント等の資料はわかりやすかったですか。
- 教員は静かな環境で受講できるよう努力していましたか。
- 総合的に判断してあなたはこの授業に満足しましたか。
- 教員は何回ぐらい休講（補講のないもの）をしましたか。
- 教員はクラスレポート（口頭発表）を課し、論評していますか。
- 教員はレポート等の返却（またはその告知）をしていますか。
- 教員は自主的発言を重んじ、評価していますか。
- 教員は学生一人一人の学修状況、理解の程度を把握していますか。
- 教員は質問の機会を与え、適切に答えていますか。
- 教員は宿題や小テストを課しましたか。
- 教員は授業の時間を守っていましたか。

受講姿勢に対する自己評価

- 授業を静かな環境で受講できるよう努力しましたか。
- この授業に積極的に参加し、意見や質問を述べるよう努力しましたか。
- この授業の今までの欠席回数は何回ですか。
- この授業に関して、授業時間外で学修に当てた時間は毎週どれくらいでしたか。

※ 文献調査・資料収集を行った時間も含む



国土交通省 「令和7年度『交通空白』解消パイロット・プロジェクト実証事業」について

連携推進センターでは、2025年度に国土交通省「『交通空白』解消パイロット・プロジェクト実証事業」の採択を受け、社会連携活動の一環として、包括連携協定先である福岡県鯖江市を対象とした人流データの調査・分析事業に取り組みました。

本事業では、データを用いた定量分析に加え、多角的な視点を獲得するため福岡県鯖江市、鹿児島県阿久根市、栃木県宇都宮市の3ヶ所でフィールドワークを実施しました。

事業の締めくくりとして鯖江市役所にて最終報告会を開催し、市長や副市長、幹部職員に対し、調査・分析結果に基づく「交通空白」解消に向けた政策提言を行いました。

本事業は、2024年度に鯖江市から受託した「人流データ分析事業」(※)を前身とし、大学独自の取り組みとして国土交通省へ申請・採択されたものです。

前年度の知見を継承しつつ、「女性・若者の視点×データ分析×フィールドワーク」を軸とした新たなアプローチを掲げ、総合政策学部の小舘亮之教授、鈴木貴久准教授の指導のもと、有志学生15名が約半年間にわたり、交通実態の把握や課題抽出、具体的な施策提案に向けた分析・調査活動に励みました。

(※) 北陸新幹線福井・敦賀開業後における鯖江市内主要エリアへの来訪者の属性や人流などに関するデータ分析事業



創設125周年記念事業:国際女性デー特別対談

2026年3月25日、津田塾大学創設125周年記念事業として、本学高橋裕子学長と京都女子大学の竹安栄子学長による特別対談「女子大学の意義を語り合う」が小平キャンパスで開催されました。会場には本学の在学生や両大学の卒業生のほか、新聞広告を通して、関心をもった一般の方や高大連携校関係者、女子大学関係者など、多岐に渡る参加者が集まりました。

対談は、両学長が自身の女子教育体験を振り返ることから始まり、各種統計データを踏まえた日本のジェンダー課題へと発展しました。「日本の人口の将来推計」や「労働力人口の推移」、「現在の男女別給与総額」などの資料から、日本の未来における女性の力の重要性が語られました。

また、両大学のモットーである「変革を担う、女性であること」、「Be the change!」を軸に、伝統のある女子大学として大事にしてきたスピリットや教育内容、卒業生の活躍といった視点から、女子大学の存在意義が力強く語られました。質疑応答でもロールモデルの重要性について熱いやり取りが交わされ、参加者からは「大変刺激を受けた」との声が寄せられ、次世代へ向けた説得力あるメッセージを届ける貴重な機会となりました。



本学 高橋学長（左）・京都女子大学 竹安学長（右）

2026年度高校生フィールドワーク・コンテスト

6月6日、小平キャンパス（オンライン併用）にて、多文化・国際協力学科による高大連携の取り組みとして、第3回高校生フィールドワーク・コンテストを実施しました。Webサイト及びソーシャルメディアにて告知を行い、全国から82の個人・グループの応募があり、書類審査によって選ばれた11組がプレゼンテーションを実施しました。当日は沖縄などの遠方からの参加者も目立ち、高校教員、保護者及び書類審査に通過しなかった応募者も参観しました。本学からは学科教員9名、学生6名が参加し、高校生と交流しました。発表後に教員によって審査を行い、右記のとおり賞を授与しました。また講評を学科Webサイト及びソーシャルメディアにて公表しました。



■最優秀賞

金 世潤(東京朝鮮中高級学校)

見えないマイノリティとアイデンティティ形成
—在日コリアン4世としてのフィールドワークから—

■優秀賞

渡邊 琉央(関東国際高等学校)

フィールドワークで進化するAIアプリ
—AIによって認知症およびMCI患者と支援者とのコミュニケーションの支援はできるだろうか？—

升本 ルナ(東京学芸大学附属国際中等教育学校)

広島県竹原市における住宅の立地と災害リスク
—地理的要因と社会的要因からの分析—

2026年度入試結果報告

2026年5月1日時点

学芸学部	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
英語英文学科	220	1,544	1,486	770
国際関係学科	200	1,507	1,445	758
多文化・国際協力学科	70	477	457	268
数学科	45	201	190	155
情報科学科	45	241	226	145
学芸学部計	580	3,970	3,804	2,096
総合政策学部	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
総合政策学科	110	1,005	818	279
総合政策学部計	110	1,005	818	279
計	690	4,975	4,622	2,375

大学院（修士課程）	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
文学研究科	15	14	12	10
国際関係学研究科	10	9	6	5
理学研究科	10	14	14	11
修士課程計	35	37	32	26
大学院（後期博士課程）	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
文学研究科	5	2	2	2
国際関係学研究科	3	0	0	0
理学研究科	3	2	2	1
後期博士課程計	11	4	4	3
計	46	41	36	29

※単位は人数。一般選抜の他に、総合型選抜、学校推薦型選抜、特別入試、社会人入試を含みます。編入は含みません。

英国ロンドン大学 SOAS(アジアアフリカ研究学院、School of Oriental and African Studies)と大学院修士課程デュアルディグリー協定を締結しました

2026年4月、本学は英国ロンドン大学 SOAS 通訳・翻訳修士課程と大学院修士課程デュアルディグリー協定を締結しました。本協定に基づき、本学の修士課程在籍中に SOAS の修士課程に1年留学をし、帰国後本学の修士課程を修了することで SOAS の修士および本学の修士の両方を取得します。本学初の海外大学院とのデュアルディグリー協定の締結となります。

本学と SOAS は、2020年7月21日、包括協定を締結、2023年9月には、授業料相互免除を含む学生交流協定が締結されました。





お知らせ

保証人の皆さまへの成績公開について

保証人の皆さまは、本学ポータルサイト「TsudaNet」にて成績を確認いただけます。本学公式 Web サイトの「在学生の方へ」▶「システム」▶「TsudaNet」からアクセスしてください。ログインするためのユーザID等の情報は、2026年度入学の方におかれましては同封の文書をご確認ください。画面左側「メニュー」の「学生カルテ」を選ぶと、成績が表示されます。また、最下部の「PDF出力」を押すと、成績通知書のPDF ファイルを閲覧できます。2026年度の成績発表は以下の日程を予定しております。

- 第1ターム：7月下旬
- 第2ターム：8月下旬
- 第3ターム：12月中～下旬
- 第4ターム：2月中旬（4年生）、3月上旬（3年生以下）

<お詫びと訂正>

2026年3月31日発行の137号にて、P2 2025年度卒業・修了（終了）者数の記載内容に誤りがございました。

謹んでお詫び申し上げ、ここに訂正いたします。

<学部>

学芸学部	9月30日付	3月18日付	3月31日付	合計
英語英文学科	4	223	—	227
国際関係学科	2	204	—	206
多文化・国際協力量科	1	64	1	66
数学科	0	56	—	56
情報科学科	0	50	1	51
計	7	597	2	606
総合政策学部	9月30日付	3月18日付	3月31日付	合計
総合政策学科	2	131	—	133
計	2	131	—	133
学部合計	9	728	2	739

夏期・冬期公開講座（大学院文学研究科英語教育実践研究）

文学研究科英語教育実践研究では、現職の英語教員、英語教育について学ぶ学生・大学院生、英語教育に関心のある方を対象に、公開講座を実施いたします。詳細は大学公式 Web サイトをご覧ください。

夏期公開講座「オール・アプローチを生かした英語授業」

- 日 程：2026年8月17日（月）、18日（火）、19日（水）、21日（金）、22日（土） 各日とも10:30～12:00
- 講 師：宮崎太樹先生
- 開催形式：オンライン（Zoom）
- 定 員：60名
- 受講料：各回 2,500円（本学学部生 1,000円）、全日程申込の場合は10,000円。
本学専任教員・非常勤講師、本学大学院生の受講料は無料。いずれも要事前申込。
- 申込方法：Google フォームまたはQRコードからお申し込みください。
- 申込締切：2026年8月3日（月）
- お問い合わせ：文学研究科英語教育実践研究担当 E-mail：e-info@tsuda.ac.jp

【Google フォーム】
https://forms.gle/
S1mPuxncoU9JTXPE6



冬期公開講座「これから求められる英語教師の資質とは」

- 日 程：2026年12月22日（火）、23日（水）、24日（木）、26日（土） 各日とも10:30～12:00
 - 開催形式：オンライン（Zoom）
- ※詳細は10月頃、大学公式 Web サイトにてお知らせいたします。

第67回 津田塾祭 （小平キャンパス）

10月17日（土）、18日（日）に小平キャンパスにて津田塾祭を開催します。

公式X：@tsudajukusai
公式Instagram：tsudajukusai
公式Webサイト：<https://sites.google.com/view/2026tsudajukusai>

第10回 津田ヶ谷祭 （千駄ヶ谷キャンパス）

10月24日（土）、25日（日）に千駄ヶ谷キャンパスにて津田ヶ谷祭を開催します。

公式X：@Tsudagaya
公式Instagram：tsudagaya_fes
公式Webサイト：<https://www.tsudagaya.com/>

津田梅子記念交流館プログラム

英語教員のためのワークショップ

- 日 時：8月15日（土）13:00～16:45、16日（日）10:00～16:45
- 場 所：千駄ヶ谷キャンパス
- 講 師：山中 司、山内 優馬、八島 智子、小西 正恵、山崎 寛己
- 定 員：40名
- 受講料：10,000円（税込） 本学在学生 5,000円

数学教員のためのワークショップ

- 日 時：8月8日（土）、9日（日）9:00～16:20
- 場 所：小平キャンパス
- 講 師：小林 俊道、野町 直史、小森 弘三、日詰 明男
- 定 員：20名
- 受講料：8,000円（税込） 本学在学生 4,000円

※詳細は、津田梅子記念交流館 Web サイトをご参照ください。
<https://koryukan.tsuda.ac.jp/>





お知らせ

2026年度 第26回 高校生エッセー・コンテスト わたしの「変革」の物語を書いてみよう (Tsuda Vision 2030 Empowering Women to Make a Difference)

- 募集内容:**「変革について」をテーマにエッセーを書いてください。英語の場合は400words程度、日本語の場合は1000～1200字程度。エッセーにはテーマとは別に独自のタイトルもつけてください。なお、生成系AI（人工知能）を使用した作品は対象外とします。(https://www.tsuda.ac.jp/aboutus/essay/index.html)
- 応募資格:** 高校生（国籍・学年・性別・居住地は問いません）
- 応募方法:** 所定の Google フォームにエッセーを記載して応募（郵送・持ち込みは不可）。
【Google フォーム】 <https://forms.gle/XqjwGAv55nhNVkoc7>
- 募集期間:** 2026年8月3日(月)～9月1日(火) 12:00受付締め切り
- 表彰:** 最優秀賞1名（賞状及び副賞5万円を贈呈）
優秀賞若干名（賞状及び副賞1万円を贈呈）
受賞者は、年内に津田塾大学Webサイトで公表します。最優秀作品は2026年度内に津田塾大学において表彰し、津田塾大学広報誌『Tsuda Today』と大学Webサイトに、優秀作品は大学Webサイトに掲載・公表します。なお、応募作品の著作権はすべて津田塾大学に帰属します。
- お問い合わせ:** 津田塾大学ライティングセンター 高校生エッセー・コンテスト事務局
(TEL : 042-342-5142 E-mail : essaycon@tsuda.ac.jp)



2026年度オープンキャンパス ※事前予約制

- 小平キャンパス（学芸学部）
2026年8月8日(土)、2027年3月22日(月・振休)
- 千駄ヶ谷キャンパス
2026年8月2日(日)、2027年3月14日(日)

以下のWebサイトにてオープンキャンパス情報公開中です。（予約受付開始は各開催日の約1ヶ月前より）

<https://opencampus.tsuda.ac.jp/>



津田塾1日体験 day ※事前予約制

9月23日(水・祝)

高校生、既卒生を対象に、小平キャンパス、千駄ヶ谷キャンパスにて、平常授業の公開等、津田塾を体験できるイベントを予定しています。

詳細は決定次第、本学公式Webサイトでお知らせします。

<https://www.tsuda.ac.jp/admissions/lesson-experience.html>



津田梅子記念会 & ホームカミングデー

2026年10月11日(日) 開催場所：小平キャンパス

- 午前の部 (10:30～11:50)
 - ・学長挨拶、同窓会会長挨拶 ・津田梅子記念礼拝
 - ・「津田梅子賞」贈賞式
- 午後の部 (13:30～15:00)
 - ・津田塾大学創立125周年記念事業特別講演：村井純氏が語る「文明の創造」（仮題）
講演者：村井 純氏（慶應義塾大学名誉教授・特別特区特任教授）
- 関連イベント
 - ・津田梅子資料室企画展、山根記念ギャラリー展示などの企画も準備中です。

● 連絡事項

開催予定の同期会は以下になります。
幹事からのご連絡をお待ちください。

60周年同期会 50周年同期会 40周年同期会
30周年同期会 20周年同期会

● お問合せ先

経営企画課（津田梅子記念交流館）

※詳細は、津田塾大学公式Webサイトに随時更新して参ります。
ご参照ください。

【お問合せフォーム】



● 表紙への想い ●

風通う屋上庭園（千駄ヶ谷キャンパス）
CHIKU

千駄ヶ谷キャンパス（アリス・メイベル・ベーコン記念館）の屋上庭園の風景をモチーフに制作しました。デッキの先に東京体育館などの景色が目の前に広がり、芝生には鳥の姿も。広い空のもと、心地よい風が通り抜けていきます。



125th Anniversary
1900-2025
2025年、津田塾大学は
創立125周年を迎えました

Tsuda Today No.137 発行日 ● 2026年7月31日 発行 ● 津田塾大学 編集 ● 経営企画課
〒187-8577 東京都小平市津田町2-1-1 Tel. 042-342-5113 <https://www.tsuda.ac.jp/>
表紙切り絵 ● CHIKU（種村千明・2000年卒）